

# 子どもの心理療法 Baby Step 2021

子どものこころの発達と精神分析的な観察の視点を生かす心理療法を学ぶ

「子どもの心理療法 Baby Step」では、赤ちゃんが一步ずつゆっくりと歩みを進めるように、子どもの精神分析的な心理療法を学ぶための小さな一歩を踏み出そうとする専門家を対象とした学びの場を提供致します。子どもの精神分析的な心理療法を学んでいく上で必要となる文献や発達に関する基礎的な文献を講読しながら、子どもの心理療法実践あるいは臨床場面での観察記録を用いた事例検討を行ない、参加者それぞれが主体性を持って考えることができるようになるために、自らの臨床感覚を磨いていくことが目標となります。初心者のためのグループなので、普段の臨床場面で感じている疑問や不安について、あるいは今後の訓練の仕方について等、様々なことを自由に話しながら、子どもの精神分析的な心理療法を学ぶための歩みを進めていくための場となればと思っています。

2021年度は、昨年度に引き続き、タヴィストック・モデルの精神分析的な心理療法の基礎を作り上げたマーサ・ハリスの考えに触れながら、発達心理関連の文献も取り入れ、子どもの精神分析的な心理療法実践の基礎となる精神分析的な観察の視点と、子どものこころの発達という視点を学んでいくことを目標とします。

## スケジュール・内容

日程：原則第3金曜日、19時30分～22時（全10回）

時間：前半1時間：文献講読＋ディスカッション、後半1時間30分：事例検討

対象：臨床心理士、公認心理師、子どもに関わる臨床家など

定員：8名（1人1回は事例提示すること、順番は相談し決める）

料金：全10回25,000円を初回に直接講師に支払う。（分割払いも可）

場所：こうぬま心理相談室（さいたま新都心駅より徒歩8分）、状況に応じてオンラインでの開催

## 参加申込

以下の手順でメールにて申し込み下さい。

▼「子どもの心理療法 Baby Step 参加申込」というタイトルで必要事項を記載し、下記のアドレス宛にメールして下さい。（[kounuma@kounuma-shinri.com](mailto:kounuma@kounuma-shinri.com)）

【必要事項】①氏名、②所属、③職種、④臨床歴・研修歴、⑤連絡先メールアドレス

▼講師より参加可能かどうかの返信メールを送ります。

## 文献

- ・Harris, M. and Bick, E. 『The Tavistock Model : Collected Papers of Martha Harris and Esther Bick』 The Harris Meltzer Trust
- ・ラファエル・レフ編(木部則雄監訳) 『母子臨床の精神力動—精神分析・発達心理学から子育て支援へ—』 岩崎学術出版社
- ・その他

## 講師

小笠原 貴史 (おがさはら たかふみ)

臨床心理士、公認心理師、サポチル認定子どもの精神分析的な心理療法士。国立精神・神経センター武蔵病院、こうぬまクリニック、スクールカウンセラー等を経て、現在、こうぬま心理相談室にて臨床実践。論文「自閉状態の間一分離性に伴う死の苦痛と生の実感の相克をめぐる一」にて、2016年度日本精神分析学会奨励賞（山村賞）受賞。共編著として『子どもの精神分析的セラピストになること（近刊）』、共訳書としてアルヴァレズ『子どものこころの生きた理解に向けて』（いずれも金剛出版）等がある。

## 文献講読について

- ・毎回の指定文献を各自が読み、レジメを作成してくること
- ・レジメは、A4 で 1 枚とし、文献の知的理解や内容の要約ではなく、文献の内容を読み、気になったポイントや疑問に思ったポイント、自らが感じたことや連想したことを中心にまとめること

## 事例検討について

- ・資料は短めに作り、実際に観察したこと、その時々自らが感じたことや思ったことについて記載

## リーディングリスト

日程	テーマ・文献
第 1 回 4/16	子どもの精神分析の学び方：Harris,M.&Bick,E. 『The Tavistock Model』 ・第 3 章「Bion's conception of a psychoanalytical attitude」(講師による試訳「精神分析的態度というビオンの概念をめぐって」) ・第 5 章「Growing points in psychoanalysis inspired by the work of Melanie Klein」(山上千鶴子訳「メラニー・クラインの衣鉢を継ぐ者たち—クライン派精神分析の歴史的概要—」)
第 2 回 5/21	精神分析的に観察する I： ・Rustin,M. 「Encountering primitive anxieties: some aspects of infant observation as a preparation for clinical work with children and families」(山上千鶴子訳「乳幼児観察のガイドライン—児童心理臨床に備えて」) ・Houzel,D. 「A psychoanalytic revolution from a speculative to an empirical point of view」(講師による試訳「思案的観点から経験的観点への精神分析的革命」)
第 3 回 6/18	精神分析的に観察する II： ・Likierman,M. 「Maternal love and positive projective identification」(山上千鶴子訳「母性愛とポジティブな投影同一視」)
第 4 回 7/16	精神分析的に観察する III：ラファエル・レフ他『母子臨床の精神力動』 ・第 16 章「アマンダー—乳房としての母親を見出した哺乳瓶で養育された乳児の観察と考察」(フランシス・グリアー) ・第 17 章「カニバリズムと救いなるもの—いつも乳房が一番よいのか [アマンダに関する考察]」(ジョーン・ラファエル・レフ)
第 5 回 9/17	母子関係について考える：ラファエル・レフ他『母子臨床の精神力動』 ・第 12 章「無意識によるコミュニケーション」(イーニド・バリント) ・第 13 章「デッドマザー・コンプレックス」(アンドレ・グリーン)
第 6 回 10/15	発達について考える：ラファエル・レフ他『母子臨床の精神力動』 ・第 19 章「赤ん坊の言葉を理解すること」(ジョアンナ・ホーソン) ・第 20 章「子どもの行動が母親の精神衛生に及ぼす影響」(リン・マリー) ・第 23 章「乳幼児期の授乳や食事に関する障害」(ステラ・アクアローネ)
第 7 回 11/19	子どもの心理療法に触れる I： ・Barrows,K. 「A child difficulty in using his gifts and imagination」(山上千鶴子訳「生のつまづき—子どもが己れの才能・想像力を活かさないのは何故なのか」)
第 8 回 12/17	子どもの心理療法に触れる II：Harris,M.&Bick,E. 『The Tavistock Model』 ・第 14 章「Towards learning from experience in infancy and childhood」(山上千鶴子訳「幼き生ある者からの学び」)
第 9 回 1/21	子どもの心理療法に触れる III：Harris,M.&Bick,E. 『The Tavistock Model』 ・第 20 章「The early basis of adult female sexuality and motherliness」(山上千鶴子訳「女性性及び母性の基盤とは何か」)
第 10 回 2/18	子どもの心理療法に触れる IV：Harris,M.&Bick,E. 『The Tavistock Model』 ・第 21 章「Infantile elements and adult strivings in adolescent sexuality」(山上千鶴子訳「青年期臨床：心の躓き、さらなる心的苦痛のあらまし【青年期の性愛にうかがわれる幼形的要因、並びに大人たらんと苦闘すること】」)

\* 予備日 (3/18)